

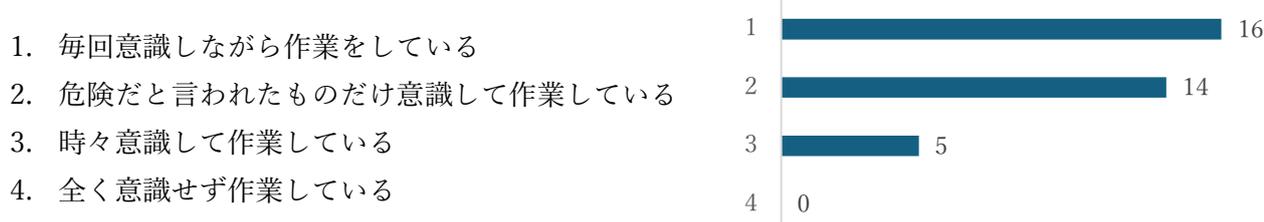
化学物質に対する意識に関するアンケート 集計結果

2026.2.2

日生化学工業所 製造部

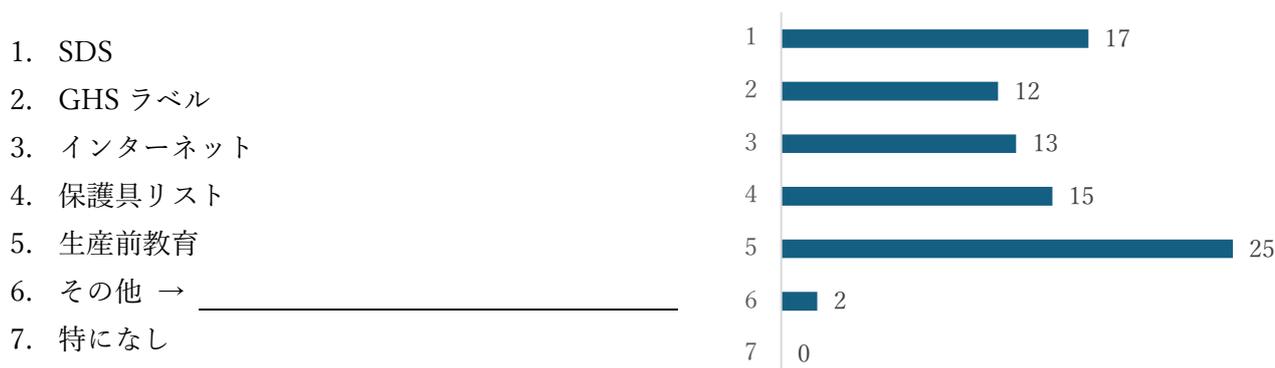
1月26日～30日に「化学物質管理強調月間」の活動の一環として、化学物質を扱う従業員のみなさまにご協力いただき、化学物質に対する意識を確認するためのアンケートを行いました。集計結果ができましたので、以下にお知らせいたします。

【質問1】 取り扱っている化学物質の危険性・有害性を考えながら作業を行っていますか



約半数の従業員が、毎回意識しながら作業をしており、それ以外は危険だと言われたものだけや時々しか意識していないことがわかった。どの化学物質も、口や鼻からの吸入や皮膚吸収によって体内へ取り込まれると有害な物質であるため、これからは自身の身を守るためにすべての化学物質の危険性・有害性を意識して作業していただきたい。

【質問2】 化学物質の危険性・有害性の情報はどこから得ていますか(複数回答可)

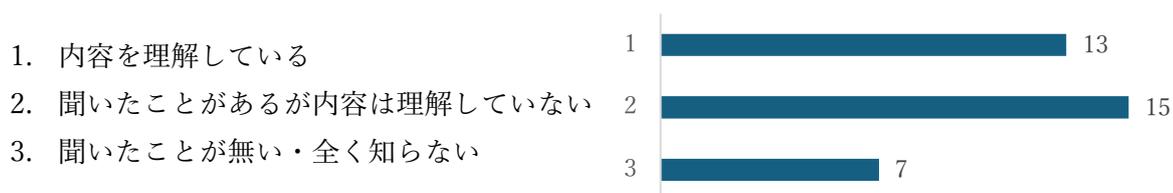


主に生産前教育での情報をもとに、化学物質の情報を得ているということがわかった。

6.その他の意見としては、「上司に相談」や「作業従事記録の対象物質」が挙げられた。

また、5.保護具リストの上部にも、各化合物の法規制情報や取り扱う上での注意点が簡単に書いてあるので、是非注意して見ていただきたい。

【質問3】「GHS」について



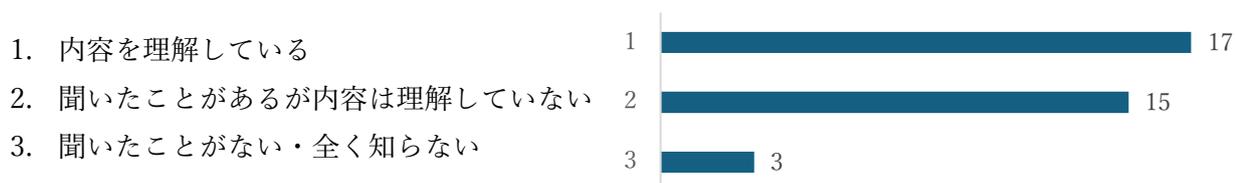
GHSを聞いたことが無い・全く知らないという従業員が7人いた。

日常的にあまり聞かない言葉だとは思いますが、化学物質を安全に扱うためには知っておいた方がよいものなので、是非この機会に覚えていただきたい。

GHS：化学品の分類及び表示に関する世界調和システム

化学品の危険性や有害性を判断するための世界的に統一された基準を提供し、化学物質のラベル(GHSラベル)やSDSにその情報を反映させることを目的とする。災害防止や人の健康、環境保護に役立てられている。

【質問4】「SDS」について

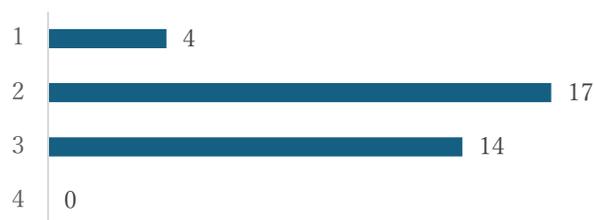


SDS(安全データシート)は、ほとんどの従業員が知っており、半数が内容を理解しているといった結果となった。

SDSには化学物質の危険有害性や取扱い上の注意事項が記載されており、インターネットで気軽に見ることができ、社内サーバにも保管してあるので、化学物質の使用前に見て、より安全に化合物の取り扱いに努めていただきたい。

【質問 5】 化学物質の危険有害性を表す絵表示について、意味がわかるものはいくつありますか

1. 9 個全部
2. 5 個以上
3. 4 個以下
4. 全く知らない・見たことが無い



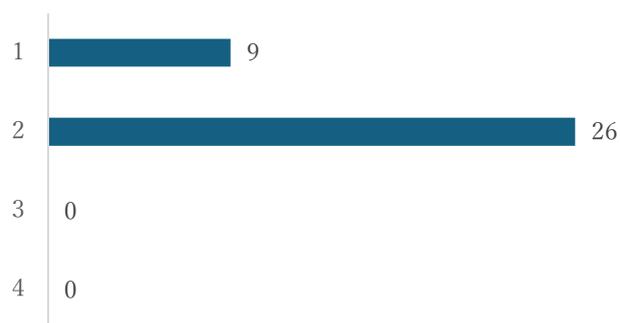
5 個以上知っているという意見が多かった。全く知らない・見たことが無いが 0 だったので、全従業員が、絵表示をどこかで見て、1 個以上は意味を理解していることがわかった。

化合物の入っている試薬瓶やドラム缶には「GHS ラベル」が貼ってあり、その中に絵表示が記載されている。日生化学で扱う化学物質では、上段一番左の炎と下段の 5 つの絵表示が、よく原料のラベルに記載されているので、この機会に是非各原料のラベルを注意して見てほしい。

(各絵表示の詳しい分類・内容については教育で説明がありますので、割愛します。)

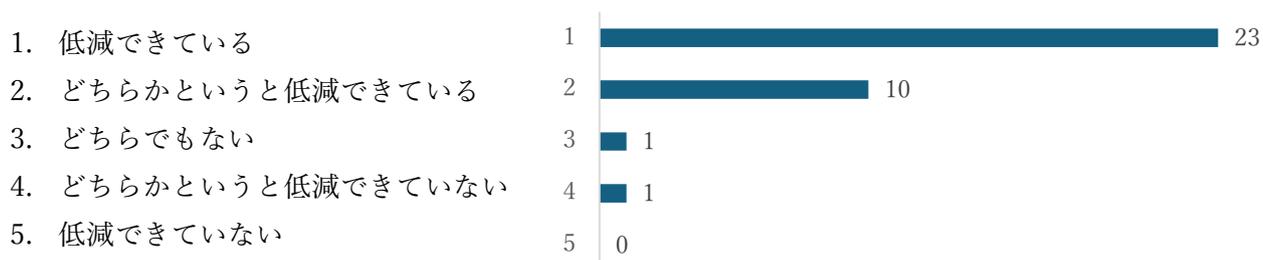
【質問 7】 作業中に保護具を着用していますか

1. 保護具リストの通りに全て着用している
／毎回手袋・保護眼鏡をして作業している
2. ほとんど保護具リストの通りに着用している
／大体手袋・保護眼鏡をして作業している
3. ほとんど着用していない
4. 全く着用していない



現場では各製品の保護具リストが出ているので、全従業員が概ねそれに従ってばく露対策を行っていることを知ることができて良かった。また、試験研究業務を主に行っている従業員に関しては、保護具リストが無い場合、手袋と保護眼鏡に関するみの質問となったが、こちらも意識して着けて作業をしていることが分かった。本来、試験研究業務も製造現場と同様にアセスメントをする必要がある業務なので、今後の作業についてリスクアセスメントを実施する予定である。

【質問 8】 保護具を着用することで化学物質のばく露が低減されていると感じますか



ほとんどの従業員が、保護具の着用によって化学物質のばく露を低減できていると感じているとのことだったので、引き続き意識して化学物質から身を守るために着用をお願いしたい。また、有害ガスが発生するもの等の保護具のみでは対応できない場合があるので、局所排気装置を使用するといった対処を併せて行っていただきたい。

今回は、化学物質のばく露を低減するために保護具の着用を促していたが、保護具はあくまで最終手段であり、有害物質を空気中に発生させないことが一番のばく露対策となる。そのためには、仕込み順や仕込み方法の変更といった作業手順の改訂や、より使いやすく有効的な排気装置の導入といった設備の強化が必要となる。特に設備の強化に関しては、現在 B 棟の作業環境について調査しているので、その結果を基に必要な設備を検討し導入する予定である。

アンケートのご協力、ありがとうございました。

今後も、有害な化学物質から身を守るための情報収集と保護具の着用を意識し、安全に仕事に取り組んでいきましょう。